

「横浜港見学会」を海上と陸上から

昨日まで続いていた雨模様の天候がどこにいったのか快晴に恵まれた 9 月 28 日のスーパーフライデーに実施した。集合場所の JR 根岸線 関内駅南口には 9 時 10 分に全員が集めた。56 名の参加者と近年では最大の規模になったため 3 色のリボンを配布して班ごとに行動をすることとした。尚、大幅な増加の要因は四季の会の尽力の賜物です。

関内駅から乗船乗り場の山下ふ頭までは徒歩で 30 分を要したが、そのコースはウォーキングに適した「横浜球場」の横を通り次いで銀杏並木が両側に並ぶ「日本大通り」には日本新聞会館、神奈川県庁、横浜開港記念館などの歴史的建造建物が通りに面してあり日陰になって快適であった。次いで山下公園に入れば雲一つなく「みなとみらい」のビル群、横浜ベイブリッジ、大さん橋等が間近に見られシャッターを切っていた。恰好のビュースポットであり、みなとみらいを借景にして集合写真を撮った。



マリンシャトルは約 800 名の乗船者を載せることができ、3 層の客室があり一番上の 3 階には遮るものがなく周りの施設を見ることができた。多くの参加者は 3 階に滞在して風景を鑑賞したり、仲間同士で歓談したりして楽しんでいた。船上からは見渡せる範囲でも多くのふ頭がありそこにはコンテナクレーンが林立していた。正に横浜港はコンテナ港としての役割が強くと感じた。また、みなとみらいのビル群の全景、遠くには丹沢山塊が見られて素晴らしい景色を堪能できた。出港して横浜ベイブリッジをくぐるころから気温が上がっていたところに風が吹き込み爽快な気分にしてくれた。各ふ頭には多くの船が接岸していた。大黒ふ頭では自動車専用船が 3 隻、コンテナ船などが着岸していた。他には在来船以外に穀物専用船といった特殊貨物専用の船が見られた。途中には甘い匂いが漂ってきたがそこは砂糖工場とのことであった。時間の経過は早くあっという間の 1 時間の航海であった。



次に山下公園に面した県民ホール 6 階にある「英一番館」にてランチを楽しんだ。部屋は我々だけの宴会用の部屋が用意されており一般席よりも眺望がよく正面にはベイブリッジ、眼下に横浜港を一望できた。10 人掛けの 6 卓のテーブルに着席してマルシェ（鯛）ランチセットを 1 時間かけて堪能した。それぞれのテーブルではビール、ワインなどの飲み物を注文して食事に花を添え和やかな雰囲気での経過が早いランチタイムであった。



食後は徒歩5分の「大さん橋ふ頭ビル」前より定員の25名バス2台による陸上からの見学をスタートした。各バスにはボランティアガイドが同乗して説明をしていただいた。先ず、「横浜ベイブリッジ」の下を通る国道357号線にて大黒ふ頭に向かった。同ふ頭に入ると数十台もあるコンテナシャーシが2車線を占有して並んでいた。それらは日本からの輸出品でありこれからクレーンにて数千のコンテナが一日で一隻の船に積み込まれるとの説明であった。車上のまま「Y-CO 屋上」では「つばさ橋」が間近に見え、また横浜ふ頭の全景が見渡せた。特に屋上とは思えない程広く一般道と見間違える広さに驚嘆した。関係者以外がなかなか見られない場所であり貴重な機会をいただいたと思えた。



次いで本牧ふ頭に向かい「横浜港シンボルタワー」の階段をほとんどの参加者が地上36メートル余りの展望室に登られた。そこからの眺望は素晴らしく遠く対岸にある千葉県製の製鉄所、海ほたる、三浦半島などが肉眼ではっきり見えたのが印象的であった。眼下にはコンテナターミナルが見られた。



バスにてJR横浜駅東口にて解散した。総じて参加者の感想は天候が良かったこと、船、バス、ランチと3種類の組み合わせが機能して充分堪能できたとの声が多かった、さらに今回は経済的にもかなり格安にて企画されていたことからその評価も高かったことなどが好意的な意見であった。今回のイベントを通じて新規会員が1名、さらに今後の新規会員予定者が2名となりイベントを評価いただいた証かと自賛しています。

最後に災害に対するワンコインの義援金については多くのご賛同を得て次の金額が寄せられました。義援金総計は7,229円でした。